

1日目 セッション概要

PM人材育成トラック

PS - 1 ITプロジェクト・マネジャーの成功条件
8/30 13:10 アンケート調査結果から成功するプロジェクト・マネジャー像を探る

株式会社 野村総合研究所 証券システムサービス基盤統括部 上級専門職 森 敬二 **SIG**

■ **セッション概要** 米国のコンサルタントが実施した調査結果によると、プロジェクト・マネジャーの成功する条件をまとめたところ、ヒューマン・スキルが82%であった。しかし、日本型組織は技術重視であり、成功条件はこれと異なるのではないかと、という疑問を持った。そこで、当WGでは「組織のマネジメント風土の比較」、「日本のプロジェクト・マネジャーのキャリアパス」等の議論結果を踏まえ、業種別にアンケート調査とヒアリングを実施し、特にITプロジェクト・マネジャーの成功条件を考察した。今回、その中間結果の報告を行う。

■ **講演者略歴** 1989年、株式会社 野村総合研究所入社。金融法人のITシステム開発業務に従事。2004年に品質監理部門にて社内プロジェクトの監理業務に従事。PMP®取得。2007年より、証券会社のITシステム開発業務のPMOを担当し、現在に至る。

PS - 3 プロジェクト現場が求めるPM教育
8/30 15:30 実戦力のある真のプロを養成する！

株式会社 PMコンセプト 代表取締役社長 長尾 清一

■ **セッション概要** 失敗プロジェクトの低減には、状況変化に応じてPMスキルを安定的に発揮できる「人財（真のプロ）」が不可欠になる。しかし多くの企業では、そのような「人財」が不足している。また即効性のあるプロの養成にも行き詰まっている。では、実戦の場で勝負できるプロを短期間で育成するためには、どうしたらよいか。PMに必須な実践スキルの重要性を認識させ、そのスキルを効率よく習得させ、習得したスキルを現場に適用、習慣化させ、行動の変化を促す方法とポイントを具体的な例を挙げながら解説する。

■ **講演者略歴** UCバークレー校ビジネススクール大学院卒 MBA取得。15年間で大規模プロジェクトを指揮監督。1993年よりPM教育専門の米国企業アジア・パシフィック地区総責任者として7ヶ国でPM研修を実施。1997年（株）PMコンセプト設立。著書「先制型プロジェクト・マネジメント」（ダイヤモンド社）。

PS - 2 PMのためのコア人材育成
8/30 14:20 製薬企業における理想のPMを目指して

中外製薬株式会社 人財開発部 兼 SMU推進部 部長 熊谷 文男

■ **セッション概要** 2002年10月新たな形態による企業提携を目指して船出した「新生中外製薬」は、この5年間で急成長（株価3倍、時価総額1兆6千億円）を遂げた。この間の「統合」から「変革」への歩みについて、PMの切り口から紹介し、中外製薬にとって理想的なPMのあり方について考察する。そして、理想の実現に向けた具体的な取り組み、すなわち試行錯誤を繰り返してきた泥臭い生の姿を、人材育成の観点から考察する。さらに、日ごろ実践している人材育成及び教育・研修の評価法や裏技も紹介する。

■ **講演者略歴** 1975年中外製薬入社。新薬の臨床開発に従事。1988年米国関連会社（ニューヨーク、シカゴ）に転出。1993年帰国。PM体制導入・確立を担当。自らもプロジェクトリーダーに。2003年人財開発部を兼務。研究開発部門、PM・ライフサイクルマネジメント関連組織の人材育成及び教育・研修を担当。

PS - 4 PBL方式によるPM教育
8/30 16:40 大学院におけるPMO活動をテーマにしたプロジェクトマネジメント教育

公立大学法人 産業技術大学院大学 産業技術研究科 教授 酒森 潔 **CFP**

■ **セッション概要** 産業技術大学院大学は2006年に東京都が開設した社会人のための専門職大学院である。本学では学生自らテーマを決めて目標達成をめざすPBL (Project Based Learning) 方式で情報アーキテクトの教育を開始した。PBLのうちの一つがプロジェクトマネジメント教育を目的としたものであり、具体的なプロジェクトテーマとしてPMO (Program Management Office) の立上を行っている。本講演では本学のPBLに対するPMO活動を通じたプロジェクトマネジメント教育の実践事例を紹介し、その効果や課題について解説する。

■ **講演者略歴** 1978年日本アイ・ビー・エム入社。社内情報システム部門にて、システムの企画、開発、保守、運用管理を担当。その後、社外の情報システム構築プロジェクトのプロジェクトマネジャーを歴任。2006年より、新設された産業技術大学院大学においてプロジェクトマネジメントを指導。

展示ブース概要 8月30日(木) 9:15~17:45 2F 桃源 ☕ **ドリンクサービス 昼休み・休憩時間に提供します。**

出展企業	出展概要
日本プロジェクトマネジメント協会	PMAJが実施する講座、セミナー、出版物等のご案内、および部会、SIG、研究会等の活動のご紹介とご参加案内。
株式会社ヒューマンデザインオーソリティ	プロジェクトマネジメントから学ぶPWAトレーニングプログラム・若手向けPMアセスメント-PWA検定のご紹介。
アイシंक株式会社	PM研修のご紹介やリーダーシップ育成シミュレータ「バーチャル・リーダー」を体験して頂けます。
公立大学 産業技術大学院大学	①大学院で取り組んでいるPM教育 (PBLを中心として) ②本学の紹介 ③本学オープンインスティテュート事業の紹介
プラネット株式会社	PMグローバルスタンダードの手法をご紹介します。公開コースはわが国最多の実績です。
株式会社口ゴ	開発現場の混乱を収束させエンジニアを元気にする処方箋、クリティカルチェーン。
株式会社ビーイング	クリティカルチェーンを用いたPMシステム『BeingManagement-CCPM』や成功事例、セミナー等をご紹介します。
株式会社ユーフィット	MS Projectを活用したPMの「見える化」のご相談。
日揮情報システム株式会社	J-SYS提供のPJ管理システム、エンジ製造業向け「EPMソリューション」・IT業界向け「Smart-PMO」
ITエンジニアリング株式会社	「PRIMAVERA」によるEPM構築の実例・機能紹介やPMに関する教育プログラムのご紹介等を行います。
株式会社ニルソフトウェア	プロジェクト管理ツール xDTSおよびWBS作成ツール WBS Padを用いたプロジェクトマネジメントの「見える化」のデモ。

2日目 セッション概要

2日目 セッション概要

A - 1 P2M活用に関する今後の展望
8/31 10:00 P2M実用の実態と今後の可能性

日揮情報システム株式会社 ソリューション本部 プロフェッショナルサービス部長 栗林 良 **P2M**

■ **セミナーの狙い** 待たれていた「P2Mガイドブック」が刷新されます。改訂のハイライトは何か。2007年度の目玉、P2Mの改訂の魅力に迫る。P2Mに知見の深いパワーユーザーは、実践利用をどのように行っているのか。P2Mの強みはどこにあるのか。今回の改訂に際しての執筆委員と実践家をお迎えして、その魅力に迫る。

■ **セミナーコンテンツ**
P2M改訂の狙いとポイント：
Ⅰ. 現行版との違い、改訂版の魅力。
Ⅱ. P2Mの理論と実践をどのように結びつけるか。
Ⅲ. 応用活用事例

■ **受講をお奨めする方** ・これからP2Mを学ぼうとする方々。・PM関連資格の保有者でさらに上級の資格を目指している方。・プロジェクトマネジメントに興味をお持ちの方。・経営戦略、経営品質を考えておられる方。・PFI、ODA、長期的研究、環境問題などに関わっておられる方。・新しい人材育成や研修制度などを検討している方。・失敗しないプロジェクトマネジメントの実践を考えておられる方。・提案・企画力、営業力の強化・改革を検討しておられる方。

■ **講師略歴** コーディネータ 栗林 良：1981年総合建設業 国内／海外プロジェクトマネジャー、1999年（株）TMSギャラクシー ISO事業部長、（株）スタット・サービス コンストラクション事業部、2000年日揮情報システム（株）勤務、SIにおけるプロジェクトマネジャー経験多数、現在に至る。

パネリスト 大熊 敏正：協和建設工業（株）代表取締役社長 他数名

B - 1 契約をベースとしたプロジェクトマネジメント
8/31 10:00 トラブルを起こさないための知識・行動

オフィスAj ビジネス・プランニング (有)ピーエム情報技術研究所 コンサルタント 山崎 正敏

■ **セミナーの狙い** 情報システム開発プロジェクトにおいて、ユーザ企業（発注者）と情報システム開発会社（委託先）との間で契約に関するトラブルが増大している。暗黙の了解による信頼関係だけでは、高度化した技術を伴う複雑化したシステム開発を対象としたプロジェクト運営に対応できなくなっている。契約・法律上のトラブルは、発注者、委託先、双方に何ら利益をもたらすことはない。このようなトラブルを起こさない堅実かつ原理・原則に忠実なプロジェクト運営を実施するために、プロジェクトマネジャーおよびメンバーが持つべき契約・法律の知識、および取るべき行動について、プロジェクトマネジメント実践者の立場から解説を行う。

■ **セミナーコンテンツ** ①契約・法律をめぐるトラブル ②プロジェクトを取り巻く契約関係 ③契約の基本 ④プロジェクトの進行に応じた対応 ⑤契約書に基づいた遂行体制

■ **受講をお奨めする方** プロジェクトに関する契約・法律知識をつけたい、①ユーザ企業で情報システムの開発を担当している方 ②情報システム開発会社で開発プロジェクトに参画されている方

■ **講師略歴** 経営、プロジェクトマネジメントのコンサルティング・研修を中心に活動中。国内外のプラント建設、情報システム開発、経営改革プロジェクトのマネジメントを経験。日本プロジェクトマネジメント協会理事・PMJ関西代表 PMP®、中小企業診断士、ITコーディネータ（株）神戸製鋼所、コベルシステム（株）／大阪大学工学部

■ **講師略歴** 経営、プロジェクトマネジメントのコンサルティング・研修を中心に活動中。国内外のプラント建設、情報システム開発、経営改革プロジェクトのマネジメントを経験。日本プロジェクトマネジメント協会理事・PMJ関西代表 PMP®、中小企業診断士、ITコーディネータ（株）神戸製鋼所、コベルシステム（株）／大阪大学工学部

A - 2 PMBOK®ガイド第3版解説
8/31 13:45 PMBOK®ガイド第3版によるプロジェクトマネジメント知識体系の解説

PMAJ研修第2部会 加藤 亨 **PMP**

■ **セミナーの狙い** 米国PMI®の発行するPMBOK®ガイド第3版は、「プロジェクトマネジメントの知識体系のうち、良い実務慣行と一般的に認められている部分を特定する」ことを目的としている。PMBOK®をベースにしたPMP®資格認定者も全世界で約22万人となり（2006年12月）、PMBOK®は、業界を問わないプロジェクトマネジメントのデファクトスタンダードとして、広く認知されている。本講座では、PMBOK®ガイド第3版を概説し、受講者のプロジェクトマネジメントの実践に役立てていただくことを目的としている。

■ **セミナーコンテンツ** PMBOK®フレームワーク、9つの知識エリア、44のプロセスおよび、PMP®試験仕様の解説

■ **受講をお奨めする方** ①PMP®資格受験を目指す方 ②PMBOK®ガイド第3版の内容を知りたい方 ③ITC、P2M資格取得者の方でPMBOK®の概要を知りたい方など

■ **講師略歴** ITエンジニアリング株式会社 C-IT事業部 事業部長：1953年生まれ、1978年 千代田化工建設（株）入社後、同社の情報化プロジェクト（電子協働プロジェクトなど）を担当。1999年 同社の情報子会社 ITエンジニアリング（株）設立とともに異動。ネットワーク事業部長、EPM事業部長を歴任。現在、ビジネスプロセスアウトソーシング事業を担当するC-IT事業部の事業部長。PMAJ研修第2部会会員、PMP®、PMS、情報処理技術者AN、AE、SD等

B - 2 攻めの姿勢で見る内部統制
8/31 13:45 プロジェクトに活力と秩序を与える

株式会社ピーアンドアイ 企画営業本部セミナー事業部 加藤 良平

■ **セミナーの狙い** 会社法、金融商品取引法（日本版SOX法）、あるいは米国で活動する企業にとっては米国の企業改革法（SOX法）などで、いわゆる内部統制がさまざまな形で要求されている。法的な基準を満たすことは当然必要だが、一方で先進的な企業は、内部統制により企業全体や各プロジェクトを強化する方向で努力を重ねている。ここでは特にプロジェクトマネジメントの観点を中心に、メンバーの意欲や能力を引き出し、組織の知的インフラを高め、企業の理念や価値を長期的に高めるためのヒントを考える。

■ **セミナーコンテンツ**
・内部統制をめぐる社会的ニーズや法的枠組み
・日本版SOX法における内部統制の基本的な考え方や対処指針
・メンバーのナレッジ向上を核とした組織論的プロジェクトマネジメント
・長期視点で健全な企業価値を三位一体フレームで考える

■ **受講をお奨めする方**
・内部統制を企業全体の中で戦略的に推進していくべき方
・個々のプロジェクトにおいて、内部統制を攻めの姿勢で活用したい方

■ **講師略歴** 1958年生まれ。専攻は数理工学で、『神経回路網理論や遺伝子学を応用した組織論』、『社会人のための数のセンス講座』、『Excelベースでの統計解析やナレッジ構築』など手がける。著書に『ソニーのDNAを受けついで11人』（集英社）、『遺伝子工学が日本の経営を変える！』（講談社+α新書）、『数字のホント？ウソ！』（KKベストセラーズ・ベスト新書）、『Excelで始めるナレッジ・マネジメント』（日本評論社）、『多数決とジャンケン』（講談社）など